

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社 林シャーリング 本社工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県常滑市久米字西仲根189番、191番、192番、193番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	7,200時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年11月 予定	評価の実施日	2019年5月15日
敷地面積	5,403 m ²	作成者	渡邊真一
建築面積	3,228 m ²	確認日	2019年5月15日
延床面積	3,408 m ²	確認者	渡邊真一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.3	3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.7

生物環境	まちなみ	地域性・
3.0	3.0	2.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	3.8	2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	3.4	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.5	3.3	3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.5

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)

25.0 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.4

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				3.7	0.48				3.7
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性		②		3.4	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			空配管、PF配管等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57				2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー					0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.72	3.8	0.43				3.8
4 効率的運用				2.0	0.29				2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				1.0	0.50				
集合住宅の評価					-				
4.1 モニタリング					-				
4.2 運用管理体制					-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.4
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			自動水栓、節水こまや節水型便器を採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63				3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			断熱材:床下	3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装が乾式工法で分別性に配慮、OA707採用	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68				
1 消火剤					-				
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材はクワロン製品を採用	4.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮		①	消費エネルギー削減により運用時のLCO2排出量低減に配慮	3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮				3.3	0.33				3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を採用していない	5.0	0.25				
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自			-				
3 悪臭					-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

(仮称)株式会社 林シャーリング 本社工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:25%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社 林シャール

計画上の配慮事項	
総合	特になし
Q1 室内環境	該当なし
Q2 サービス性能	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	空地率を大きくすることにより敷地内温熱環境の向上に努めている。 また、緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。
その他	-